



口加だより

平成29年2月28日発行
長崎県立口加高等学校
第11号

人生は「冷静かつ大胆に」

校長 下釜祐保



2月は、1, 2年生が健脚を競ったマラソン大会から始まった。頑張る口加高生に、今年もまた多くのご支援・ご協力があり、感謝に耐えない。恒例の豚汁を提供して下さった母親委員会、沿道で手を振り声援くださる地域の方々、志願して役員を務めてくれた3年生、安全確保のため中継地点で監察業務に立った教職員も含め、本当に多くの支えがあってこそこの大会となった。

自分の話で申し訳ないが、私自身、マラソンは苦手な集団の後ろからついていくタイプだった。高校時代は練習を含め、走るたびに「ウサギとカメ」の話、おそくてのろまなカメでも一步一步がゴールへのステップであり、これを繰り返すしかないと言いつつ自分を思い出す。

ところで、童謡「ウサギとカメ」の歌詞は、

(ウサギ) もしもしカメよ カメさんよ せかいのうちで おまえほど
あゆみののろい ものではない どうしてそんなに のろいのか
(カメ) なんとおっしゃる ウサギさん そんならあなたと かけくらべ
むこうのおやまの ふもとまで どちらがききに かけつか

であるが、私は幼い頃からどうしても、このカメの言動が不思議に思えてならない。なぜ、このような無謀ともいえる競走を自らもちかけたのであろうか。私がカメなら「むこうの島の岸まで」などと、得意の泳ぎで勝負に誘いたい。「努力が天才に勝る」の教訓として幼な心にたたき込まれた日本人は皆カメが好きだが、無謀な宣戦布告だけではどうもいただけない。

この寓話は、ウサギの方から見れば「能力はあっても努力しなければ結果に結びつかない」との解釈もできよう。また、「圧倒的に不利な条件でも戦わなければならないときがあり、勝負は結果が出るまで分からない」という教えとも読める。

明日は、卒業式。菖蒲が丘を巣立つ卒業生にはもう沿道で声援を送ることはできなくなるが、人生のどのような場面であれ、冷静な判断力と大胆な実行力で、たくましくチャレンジして人生を謳歌して欲しい。

～マラソン大会ルポ～

2月1日(水)、校内マラソン大会当日。男子は8.0km、女子は4.8kmの早崎コースを走りました。途中観察地点で生徒を応援していると、ある生徒が目の前を駆け抜けた後、少し先の方でうずくまっていた。側へ行くと、両膝をすりむき、出血した様子。痛そうな姿から救護車を呼ぼうとしたその時、生徒はゆっくりと立ちあがり「頑張ります」と言って、また走り始めました。普段使っている「頑張る」という言葉の意味を改めて実感した瞬間でした。そして、最後まで完走しようとする向いた生徒の強い姿に激しく心をうたれた瞬間でした。生徒の皆さん、本当にお疲れ様でした！

完走後、母親委員会のお母様方に作っていただいた美味しい豚汁で生徒は身体とハートを温めていました。朝早くからご協力いただきましたお母様方、また走る生徒を応援していただきました地域の皆さま、本当にありがとうございました。

【男子】 福田 航平 中島 浩一朗 3位 喜久 寛仁
【女子】 鬼塚 礼奈 志方 圭華 3位 馬場 愛純

学年だより

～第1学年より～

突然ですが、私はマラソン大会が好きです。理由は2つあります。1つ目は、もし団体の表彰を受ければ、それは得意な人が頑張っただけでなく苦手な人も頑張った証になるからです。人それぞれ得手不得手がありますが、1つの競技において全員が頑張った達成感を味わうことができるのはマラソン大会だけなのではないかと思います。2つ目は「自分との戦い」だからです。諦めるのも自分・もう少しと踏ん張るのも自分、諦めの悪い人を素敵だと私は感じます。スラムダンクの三井寿のように・・・
一生懸命頑張ったみんなお疲れさん！ (1学年主任 松本辰哉)

～第2学年より～

理想と現実 (Ideal and Reality)

70回生は来年の3月1日に卒業式を迎える。あと1年。高校に入学したときの理想は何だったか？ 現実は今どうなっているか？

『現実を直視する心に本当の理想が生れる (A true ideal is born in the heart which faces reality.) —ゲーテ』。目をそらさず現状を把握し、高校を卒業するときどういう自分になっていたか今一度問い直し、そのために今なすべきことやできることに全力で取り組もう。来年度からではなく、来月からでもなく、今この時から。 (2学年1組副担任 野口敦子)

～第3学年より～

あつという間の高校生活、3年生のみなさん今どのような気持ちで振り返っていますか。3年前の自分と比べて、できるようになったことがたくさんあるかと思えます。クラスや部活、その他色々な活動で多くの人とふれあってきました。悩んできつかった時期もあったはずですが、今も心に抱えている何かがある、という諸君もいるでしょう。そういうことを全て含めて、諸君は過去の自分より人として成長していると私は信じています。人の気持ちを考えて自分の言動をコントロールできるようになった、少なくとも、3年前の自分よりかは。それだけでも、素晴らしい成長です。多様な立場や考え方の人と接していかないと身につかないことですから。「どうしていいかわからないときにどのように自分は振る舞うべきか」を、感情的にならずに一呼吸してじっと考えられる、そんな大人になってください。若い諸君が今を生きていてよかったと思えるよう、社会人の先輩として、私も努力していきます。

(3学年4組副担任 藤田綾子)

☆今月の生活創造コース☆

★家庭科技術検定1級食物調理・和服・洋服3種目取得 三冠王誕生!

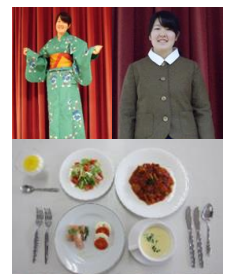
池崎奈々さん



塩土亜美さん



渡部真実さん



2月10日(金) 民間講師招へい事業「乳幼児の食生活について」(2年)

講師 管理栄養士 馬場美智代先生

離乳食や幼児食、朝食の大切さなどについて学びました。また、栄養士の仕事についても話していただきとても勉強になりました。

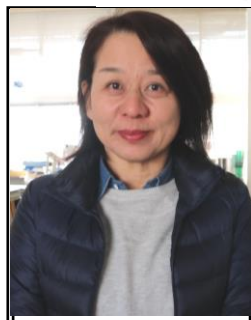


3年生! 卒業おめでとう!!

卒業おめでとうございます。
これからも人との出会いを大切にしてください。
「一期一会」



1組 内田政孝先生



2組 副田麻由美先生

第69回生の皆さん、卒業おめでとう。
この1年間は、進路実現のために自分で考え行動し決定する場面が多くありました。皆さんの真剣に向き合う姿を目の当たりにし、非常に頼もしく思っています。これからの人生、家庭や学校で学んだことを礎に堂々と歩いてください。

保護者の皆様、この度はご卒業おめでとうございます。この一年間、学年団はじめ、全職員で進路達成に向けて尽力して参りました。いよいよ大切なお子様をご家庭へお返しする時が来ました。お子様の次の進路先での活躍を祈念致します。



3組 松竹一成先生

ご卒業おめでとうございます。

高校という守られた環境から巣立つわけですが、期待と不安に胸いっぱいといったところでしょうか。これからの環境で、どのように物事を感じ、考えて行動するかで人生はまだまだ変わっていきます。人との出会いを大切にしながら、人生を楽しんでください。

そして、外見だけでなく、内面も成長した今なら、これまで支えてくれた人々へ感謝の気持ちを素直に伝えられるようになってきていることだと思います。ぜひ、多くの「ありがとう」を伝えてください。



主任 本多優子先生



4組 小原義康先生

人生を豊かにする5つの心がけ

- か：感謝すること。
- き：気配りすること。
- く：工夫すること。
- け：謙虚になること。
- こ：行動すること。

すべての69回生に幸あれ。卒業おめでとう!

日時：平成二十九年三月一日（水）一〇時より
（九時四十五分までに）入場ください。
場所：本校体育館
（駐車場は、第2グラウンドを準備しております。）

卒業式のご案内

僕の前に道はない
僕の後ろに道はできる
この頃、特に心に響きます。
何歳になっても、目の前に道はありません。
そして、踏み出す勇氣は、年々、揺らいでいきます。
後ろにできた道が長くなっていくからでしょうか。守るべきものが増えていくからでしょうか。でも、一度きりの自分の人生です。新しい世界を見たいと思ったら踏み出しましょう。
みんなの前には、誰も知らない未来があります。踏み出さなければ決して開かない扉があります。
今の自分の狭い世界から、一步、前へ。しんどくなったら、ちよっと立ち止まって、温かい思い出の場所へ戻っておいで。いつでもみんなを迎え入れてくれますよ。
そしてまた、一步、前へ。
卒業おめでとうございます。

卒業おめでとう。口加高校卒業を明日に控えた君たちはこの1年間で、本当によく成長しましたし、私も君たちに成長させてもらいました。ありがとう。さて4月からはほとんどの人が地元を離れ、新生活が始まります。全てのことを自分自身で判断し、行動していかなければなりません。しかし、「受験」という荒波に揉まれた君たちなら、きっと自分自身を高める最善の策を考えて行動できるはずです。小説家の浅田次郎氏のエッセイ集に登場する『花笑鉄心』という言葉があります。花のように笑い、鉄の意志で人生を歩むという意味です。私の好きな言葉の一つです。苦しい時、悩んだ時にはこの言葉を思い出し、希望に満ちた人生を切り拓いてください。



5組 山内徹先生



宮川律子先生 片山司朗先生 久部利恵子先生 小松敏一先生 藤田綾子先生

職員ペンリレー 松下恵太先生

最近、海堂尊さんの小説に再び読みはまりました。「チームバチスタの栄光」など医療の場を舞台にしたミステリー小説で、一旦読み出すと途中で止めたくなくなるほどおもしろい！単におもしろいだけでなく社会問題にも触れてあり、ニュースなどで目にする出来事を別の視点から考えるいいヒントにもなります。

近頃はこれまでの単一的な思考がいかに未熟だったかを痛感することが多々あります。自分の価値観で物事を判断し、正誤を見極めた気になっている自分の視野は、本当に狭いものだと反省しきりです。どうしても人は主観で物事を判断してしまいます。他人の意見も受け入れて、と言うのは簡単だけれど、実はかなり難しい！！でもそこに力点を置くことが大切なんだろうと思います。

立場が変われば意見が変わる。1人の人が社会の中では多くの立場を持っている。だから、社会人（社会に生きる人間）として多角的視点を持つように心がけていきたいと思っています。